



# AUTISM CONFERENCE NIPPON

2016.8.20 SAT-8.21 SUN WASEDA UNIV.No.14 BLDG.

今年も、国内最大、  
最高の自閉症(ASD)支援のための  
専門会議に



TEACCH モデルに学ぶ実践研究会

## 自閉症カンファレンスNIPPON 2016

早稲田大学 早稲田キャンパス14号館

主催 ● 自閉症カンファレンス NIPPON 実行委員会・朝日新聞厚生文化事業団

後援 ● 厚生労働省・文部科学省・日本自閉症協会・日本知的障害者福祉協会(予定)

# PROGRAM

AUTISM CONFERENCE NIPPON 2016



自閉症カンファレンス  
NIPPON 2016

TEACCHモデルに学ぶ実践研究会

9:00 受付

9:30 開会

【開会宣言】(201会議場)

●佐々木正美 川崎医療福祉大学客員教授

9:45 【自閉症の人のラーニングスタイル 2016】

【201会議場】

●ゲーリー・メジボフ ノースカロライナ大学教授

12:00 昼食

サブプログラム

※2日目15:00までの常設プログラム

【ポスターセッション】

【コミュニケーション機器ルーム】

【医療ルーム】

13:15 【トータルな  
地域生活サポート】

【201会議場】

●ドーン・アレン

ノースカロライナGHA自閉症サポート

入門解説講座

【基礎からの構造化】

【102教室】

14:45

休憩

15:00

入門解説講座

【基礎からの評価と自立課題】

【102教室】

DVDシアター

【自閉症の人が求める支援

～構造化】

【101教室】

16:00 【トータルな  
地域生活サポート】

【201会議場】

●ゲーリー・メジボフ

16:30

17:00 交流パーティー 【ホテルグランドヒル市ヶ谷】

19:00

※プログラムは都合により内容を変更する場合があります。

<p>9:45 ~ 12:00 201 会議場</p>	<p><b>『自閉症の人のラーニングスタイル 2016』</b>  <b>ゲーリー・メジボフ</b> ノースカロライナ大学教授(前TEACCH部ディレクター)                      自閉症の人への支援で、TEACCHが哲学のもととする「自閉症の人を正しく理解する」ために、「ラーニングスタイル」と「ニーズへの対応」についてゲーリー・メジボフ教授が解説します。</p>
<p>13:15 ~ 15:45 16:00 ~ 16:30 201 会議場</p>	<p><b>『トータルな地域生活サポート』</b>  <b>ドーン・アレン</b> ノースカロライナGHA自閉症サポート  <b>ゲーリー・メジボフ</b>                      コニークなニーズをもつ自閉症の人たちに合わせて、地域生活サービスを展開するGHA自閉症サポート代表が、その質の高いさまざまな支援の実践を紹介しします。</p>
<p>13:45 ~ 15:00 102 教室</p>	<p>入門解説講座  <b>『基礎からの構造化』</b>  <b>諏訪 利明</b> 川崎医療福祉大学                      TEACCHプログラムの自閉症の人への支援の有力な戦略のひとつ構造化。自閉症カンファレンスNIPPON実行委員が、その基本を分かりやすく解説する大好評の基礎講座です。                      (会場の都合により定員制とさせていただきます。)</p>
<p>15:15 ~ 16:30 102 教室</p>	<p>入門解説講座  <b>『基礎からの評価と自立課題』</b>  <b>中山清司</b> 自閉症eサービス                      自閉症の人への支援の実際を考えるときに基本となる「評価」の基礎を分かりやすく解説しながら、「自立課題」のつくり方を自閉症カンファレンスNIPPON実行委員が紹介しします。                      (会場の都合により定員制とさせていただきます。)</p>
<p>15:15 ~ 16:30 101 教室</p>	<p>DVDシアター  <b>『自閉症の人が求める支援～構造化』</b>                      構造化の実際について理解するために制作されたDVDを、カンファレンス会場の大画面で。実際の教室を使用し、それぞれの生徒に合わせた構造化の過程を、解説を交えながら画期的映像で紹介しています。</p>

# PROGRAM

AUTISM CONFERENCE NIPPON 2016



自閉症カンファレンス  
NIPPON 2016

TEACCHモデルに学ぶ実践研究会

9:00 受付

9:30 『教育へのコンサル  
テーションと就労支援』

【201会議場】

●ドーン・アレン

ノースカロライナGHA自閉症サポート

分科会

『実践報告』

1.「スケジュール」

【101教室】

2.「はじめての構造化」

【102教室】

3.「アクティビティー」

【B101教室】

12:00 昼食

「ポスターセッション」

13:00 『地域での質の高い  
社会生活を目指して』

～日本各地の親の  
活動から学ぶ～

【201会議場】

特別講座

『医療サポートセミナー』

【102教室】

『コミュニケーションセミナー』

【403教室】

『評価実践セミナー』

【B101教室】

DVDシアター

『自閉症の人が見ている世界』

【101教室】

14:30 休憩

14:45 『自閉症の人の支援でもっとも大切なこと』

～コアバリュー 2016～【201会議場】

●ゲーリー・メジボフ ノースカロライナ大学教授

16:15

※プログラムは都合により内容を変更する場合があります。

<p>9:30 ~ 12:00 201 会議場</p>	<p><b>『教育へのコンサルテーションと就労支援』</b>  <b>ドーン・アレン</b> ノースカロライナGHA自閉症サポート                      TEACCHの指導を受け、居住プログラムへのサポートから端を発し、いまや学校コンサルテーションや就労支援など、社会生活全般に及ぶGHAプログラムの数々の実際を紹介します。</p>
<p>9:30 ~ 12:00 [スケジュール] 101 教室 [はじめての構造化] 102 教室 [アクティビティ] B 101 教室</p>	<p><b>『実践報告』</b>                      3つの部屋に分かれ、全国の実践報告を聞きます。各5セッション。分科会間の移動は自由です。興味と関心に合わせて自身で選んでご参加ください。</p> <p><b>『スケジュール』</b> 101 教室 構造化の重要な要素[スケジュール]についての発表です。一人ひとりを個別に評価して、一人ひとりに合わせたスケジュールによって自立した活動が生まれます。</p> <p><b>『はじめての構造化』</b> 102 教室 自閉症の人への支援の基本であると同時に、すべての要素をクリアする必要がある、創造が求められる構造化。構造化を実践する際に参考となる事例の発表を。</p> <p><b>『アクティビティ』</b> B 101 教室 福祉や就労、生活などさまざまな場面で実践される具体的な支援の方法を、アクティビティ(ワーク)に絞って紹介します。</p>
<p>13:00 ~ 14:30 201 会議場</p>	<p><b>『地域での質の高い社会生活を目指して』</b>                      ～日本各地の親の活動から学ぶ～  <b>木村ひとみ</b> 青森県自閉症協会・<b>鈴木正子</b> I Jの会・<b>江口寧子</b> NPO法人それいゆ                      自閉症の人の地域での質の高い社会生活を実現するために、「わが子」に、そして「地域」での実践を各地の親ごさんから学び、親だけではなく市民レベルでのこれからの活動について考えます。</p>
<p>13:00 ~ 14:30 102 教室 403 教室 B101 教室 101 教室</p>	<p><b>『医療サポートセミナー』</b> 102 教室                      自閉症の人たちが医療機関を利用する際、よりスムーズに受診や通院ができるようになるための「合理的配慮」について考察します。</p> <p><b>『コミュニケーションセミナー』</b> 403 教室                      自閉症の人が苦手とすることを「得意」に変える機器や携帯電話などの活用法について具体的に提案します。</p> <p><b>『評価実践セミナー』</b> B 101 教室                      支援をする際に基本となる「評価=アセスメント」から個々の活動の立案について、演習形式で解説し学びます。</p> <p>DVDシアター<b>『自閉症の人が見ている世界』</b> 101 教室                      自閉症理解のために制作された大好評DVDをカンファレンス会場の大きな画面で、13人の自閉症の方々が語る言葉と具体的な映像は、私たちに新たな理解と示唆を与えてくれます。</p>
<p>14:45 ~ 16:15 201 会議場</p>	<p><b>『自閉症の人の支援でもっとも大切なこと』</b>                      ～コアバリュー2016～  <b>ゲーリー・メジボフ</b> ノースカロライナ大学教授                      ゲーリー・メジボフ教授による「私たちが自閉症の人たちを支援するときに最も大切にしたいこと」。これこそが自閉症の人への支援の根本哲学です。</p>



# スケジュール

「時間割」や「日課」ではない、個別のスケジュール。一人ひとりを個別化して一人ひとりに合わせたスケジュールは、支援の根幹のひとつです。

① 橋口 祥子

風の道

事業所では、一人ひとりに合わせた個別の「スケジュール」を提示しています。ご利用者がスケジュールを活用して、見通しや変更を理解し、自立的にさまざまな活動をされている様子を紹介します。

② 西田 恵理子

東京都立王子特別支援学校

自閉症スペクトラムとご本人の特性を考慮して、スケジュールの示し方を工夫しました。本人が納得して行動できるように試行錯誤しています。

③ 松尾 浩久

NPO法人HEROES

行動障害やいわゆる問題行動といわれる行動のある方が、生活介護事業所HEROESを利用する際に使用している構造化について、特にスケジュールの使用に焦点を当てて報告します。

④ 留目 美智子

ホープフルのぎく園

ご本人の特性を軸に個別化したスケジュールを作成して支援することは、自立して取り組む習慣を作ります。それは幼児期、学童期においては生活リズムの確立に役立ち、学校卒業後は仕事を継続することに役立ちます。

⑤ 田村 千尋

ライフサポートなにな

自閉症の人が「見通しを持って」「より自立して」過ごすためのスケジュールの活用例を紹介します。また、個々に合わせたスケジュールを作る際に、支援者が留意している点にも触れます。

# はじめての構造化

支援の基本であり、かつ創造が求められる構造化。正しく一人の人を評価し、正しい支援に結び付ける。その最も大切なツールである「構造化」の実例を。

## ① 二宮 綾子

愛媛県立宇和特別支援学校

宇和特別支援学校の子どもたちは、自然の中で伸び伸びと学んでいます。私たちは構造化ありきではなく、ニーズに合わせた支援を考えていくと、各々に必要な構造化になると考えます。小学部の取り組みを紹介します。

## ② 加藤 健生

発達障がい児・  
者支援準備室 PIECE

さまざまな障害種別の成人の方が通う福祉事業所の事例です。事業所が提供する活動に参加することが困難で、さまざまな課題を示していた重度知的障害を伴うASDの方に構造化を取り入れて行った支援を紹介します。

## ③ 小坂 正栄

NPO法人  
日本ボーディング協会

彼女(30代)は、食べたヨーグルトカップやお菓子の空き箱などを保管し、入所施設から帰省する際、大量に持ち帰る習慣を長年続けてきました。これはコレクション？本当にお宝なのでしょうか？・・・

## ④ 山田 多恵子

さくら工房

自閉症のわが子をもっと理解して支えたい！と親たちが20年前に集まりました。家庭での実践が支援の輪を広げ、2年前に生活介護事業所「さくら工房」を開設しました。基本を大切に行っている日々の支援を報告します。

## ⑤ 須川 明子

自閉症児支援センター  
wave

スケジュールだけでは見通しが持てず、不適応を起こす5歳の子どもの事例です。新しい環境でチェックシートを併用し、その場面での確認するポイントを知ること、落ち着いて過ごす場所が増えたケースの報告です。

# アクティビティ

学校の教室で、家庭の中で、福祉や就労の現場で、あるいはレジャー(余暇活動)で。さまざまな場面での具体的な支援の実践を。

## ① 堀田 大樹

萩の杜

知的障害者生活施設で暮らしている方で、食事、入浴に長時間かかることがあります。その日の本人の様子に合わせ、構造化のアイデアを使ってスムーズに活動に取り組めるように支援を行っている現状の報告です。

## ② 井原 佳代

ジョブあしすとUMA

職場実習先において、TTAPのインフォーマルアセスメントを活用した就労支援の取り組みを紹介します。スキル領域と行動領域に着目した評価に基づく支援を通じて、よりよいジョブマッチングを目指します。

## ③ 滝澤 健

香川大学教育学部付属  
特別支援学校

本校中学部の清掃活動では、自分でできることを基にして、他者から認められ、感謝される経験を通して自己有用感を育むことを大切にしています。そのための個別の評価に基づいた構造化による支援を紹介します。

## ④ 田口 正子

のぞみの園

著しい行動障害があり、精神病院に入院していた自閉症・重度知的障害の方を受け入れ、安定した暮らしができるようになって近隣の施設やグループホームに移行していただく取り組みの途中経過を紹介します。

## ⑤ 鈴木 潜

東京学芸大学大学院

知的障害のある自閉症スペクトラムの子どもへの買い物指導について2つの実践を紹介します。1つ目は新しくお金の学習を始めた子どもへの指導、2つ目は支払いのできる子どもが実際に買い物に行くための指導についてです。



# SUBPROGRAM

AUTISM CONFERENCE NIPPON 2018

## サブプログラム

自閉症カンファレンスNIPPONのもうひとつの魅力、充実のサブプログラム。常設企画にも、ぜひお立ち寄りください。「ポスターセッション」「コミュニケーション機器ルーム」「医療支援の部屋」。今年も新たな情報を自閉症カンファレンスのサブプログラムで。

### 「ポスターセッション」 2F正面ホール

日ごろの実践やアイデアをポスターで発表。全国各地の活動がビジュアルに報告されます。両日とも昼休みの下記時間帯に、ポスターブースで内容の発表があります。

■8/20(土) 12:30～13:00

■8/21(日) 12:15～12:45

### 「コミュニケーション機器ルーム」 514教室

自閉症の人にとって、医療機関での診療行為が困難な場合は少なくありません。この部屋では、自閉症の人たちの医療機関受診の現状、理解と支援についての考え方、具体的な対応例などを紹介します。

### 「医療支援の部屋」 515教室

自閉症の人にとって、医療機関での診療行為が困難な場合は少なくありません。この部屋では、自閉症の人たちの医療機関受診の現状、理解と支援についての考え方、具体的な対応例などを紹介します。

### 「関連資料・書籍展示」 2F正面ホール

自閉症や発達障害関連のたくさんの資料・書籍がご覧いただけます。

# MAP

AUTISM CONFERENCE NIPPON 2016

## お願い

会場内での録音および写真・ビデオ撮影・パソコンへのデータ取り込みは、プライバシー・著作権の関係で一切お断りをいたします。あらかじめご了承のうえ、ご協力ください。

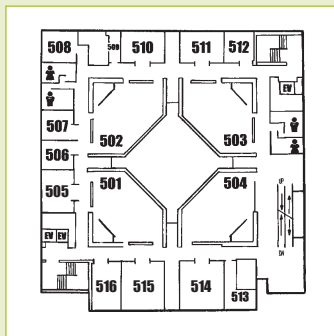
またゴミはすべてお持ち帰りください。

## あんない

昼食(弁当)を申し込まれている方は、12:00から1F受付にて引換券と交換いたします。

14  
号館

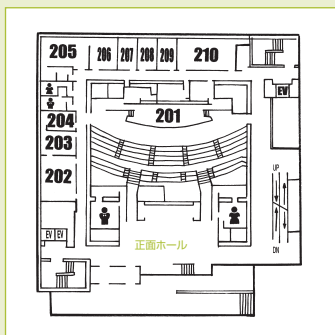
5F



■「コミュニケーション機器ルーム」 514 教室

■「医療支援の部屋」 515 教室

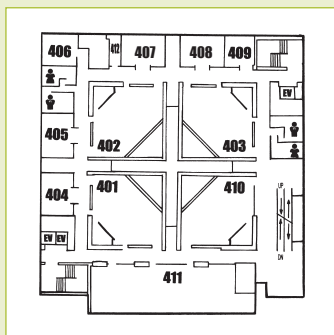
2F



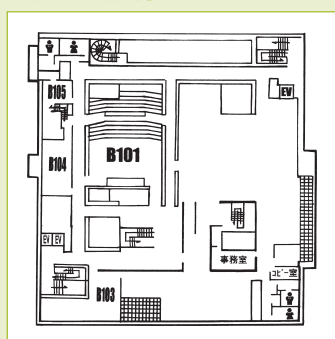
■「ポスターセッション」 2F 正面ホール

■「関連資料・書籍展示」 2F 正面ホール

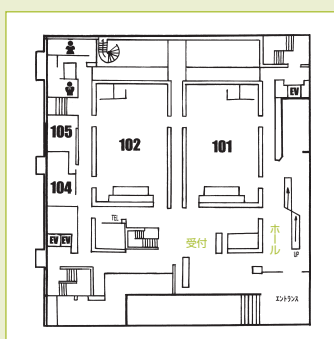
4F



B1F



1F

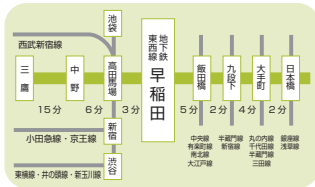


会場のご案内

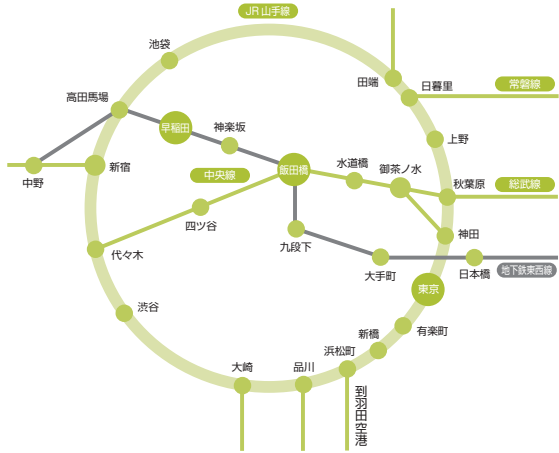
早稲田大学 早稲田キャンパス 14号館 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

- JR 山手線 高田馬場駅徒歩 20 分
- 地下鉄東西線 早稲田駅徒歩 5 分
- 都 バ ス 早大正門

地下鉄東西線



- 東京駅からは  
JR 中央線で御茶ノ水駅、総武線（各停）に乗り換えて飯田橋駅へ行き、地下鉄東西線に乗り換えて早稲田駅。
- 新宿駅からは  
JR 山手線で高田馬場駅、地下鉄東西線で早稲田駅、または高田馬場駅からバス利用で早大正門。



早稲田大学構内図(早稲田キャンパス)





TEACCH モデルに学ぶ実践研究会  
**自閉症カンファレンスNIPPON 2016**

2016.8.20 SAT-8.21 SUN WASEDA UNIV.No.14 BLOG.

## AUTISM CONFERENCE NIPPON 2016

◆自閉症カンファレンス NIPPON 実行委員会◆

委員長 佐々木正美(川崎医療福祉大学)／安倍陽子(横浜市東部地域療育センター)／内山登紀夫(大正大学)  
梅永雄二(早稲田大学)／大屋滋(千葉県自閉症協会)／幸田栄(川崎西部地域療育センター)／坂井聡(香川大学)  
志賀利一(国立のぞみの園)／諏訪利明(川崎医療福祉大学)／津田明雄(NPO 法人クローバー)  
中山清司(自閉症 e サービス)／福田年之(朝日新聞厚生文化事業団)／藤村出(NPO 法人 SUN)  
村松陽子(京都市児童福祉センター)